

仕事人秘録

IDG日本法人に移った平松氏は赤字部門の売却や従業員削減など徹底したりストラを断行した。

社長就任2年目には赤字を約8千万円に縮小できた。再建シナリオの順調な遂行状況に満足していたある日、米国本社から電話がかかってきた。ジム・カセラ社長から「君を日本法人の社長職から解任する」と唐突に告げられた。

上司を評価する社内制度で冷徹にリストラを敢行する私の評価は「最悪」と判定されたらしい。カセラ社長とは経営方針を巡って、再三意見対立していたことも影響したかもしれない。これに対し、私の出した

人に恵まれた転職人生 ⑨

元ライブドア社長
平松 庚三氏



MBOに携わったメンバー（右端が平松氏）

突然の解任劇、社員が抗議

計ソフトの米最大手インターネットの日本法人社長に就任した。私の使命は同社の再建だ。そこで、思い切ってQ Bの販売をやめ、社内の経営資源を弥生会計に集中させた。弥生会計の売り上げは急伸。快進撃が始まった。約1年後、米国本社から「日本市場から撤退するため、日本法人の買い手を探せ」との指令が出た。その時、私の脳裏に妙案が浮かんだ。「では『我々が買う』と言ったら、受けるか」「そうならば、最高だ」。私がMBO（経営陣が参加する買収）を模索し始めた瞬間

答えは徹底抗戦だった。直したが、約80人の社員らにはちに全社員を集めて、解任の経緯だけでなく、社員が痛みを甘受しない企業再生などあり得ないことを改めて説明した。社員は納得してくれ、多くは米国本社に抗議してくれたようだ。数日後、米国本社のパトリック・マクガバン会長が来て来て来日し、社員の前で新経営陣を発表しようと

6時間近くも私の解任について抗議し続けてくれた。マクガバン会長が解任を断念し、会議室に社員らの歓声が響き渡った瞬間を私は生涯忘れないだろう。それから約10カ月後、約1800万円の営業利益を計上することに成功した。平松氏はその後、AOLの日本法人社長を経て、会社